

評価対象	今年度の方策	今年度の具体的数値目標	成果と課題(昨年比)	2学期の主な改善策
I 保護者等との連携	<p>○学校、学年、学級通信の発行や、ホームページの更新及びスクールメールアシストの活用等を通して、タイムリーな情報を提供する。</p> <p>○保護者会・懇談会・電話連絡や家庭訪問を通して、保護者の気持ちや意向をくみ取り、誠実に対応する。</p>	<p>○学校や生徒の様子が分かると感じている保護者が80%以上。</p> <p>○学校は連絡や相談がしやすいと感じている保護者が80%以上。</p>	<p>○学校や生徒の様子がよく分かると思った保護者は85%(+3%)</p> <p>●学校は連絡や相談がしやすいと感じている保護者は74%(+1%)</p>	<p>○学年通信やスクールメールアシストでの情報提供の他、行事や部活動の大会結果などホームページにアップしていきます。また、学校からのたよりは、必ず保護者に見せるように伝えます。</p> <p>○電話や保護者会などで積極的に話しかけたり、事務連絡だけでなく最近の様子の情報交換をしたりすることを通して、保護者との信頼関係を深めます。</p>
II 確かな学力	<p>○伸ばしたい資質・能力を明確にし、やりがいのある魅力的な学習課題の設定とねらいに沿った振り返りを実施する。</p> <p>○自主学習ノートの継続的な確認と支援や、「学力向上通信」の定期的な発行を通し、家庭学習の量的質的充実を図る。</p>	<p>○授業が分かると感じている生徒が80%以上。</p> <p>○授業が楽しいと感じている生徒が80%以上。</p> <p>○1日あたりの家庭学習(塾等を含める)の時間が、1時間以上である生徒が80%以上。</p>	<p>○授業が分かると感じている生徒は88%(+3%)</p> <p>●授業が楽しいと感じている生徒は76%(+7%)</p> <p>○1日あたりの家庭学習(塾等を含める)の時間が、1時間以上である生徒は84%(+1%)</p> <p>保護者は72%(−8%)</p>	<p>○課題解決型の単元・題材を設定し、学習への見通しをもたせる工夫を行うことで、単元を通して達成感や満足感を味わうことができるような授業づくりに努めます。</p> <p>○日常生活で活用できると実感できるような学習課題や活動を設定することで、分かる、楽しい授業づくりに努めます。</p> <p>○毎朝自主学習ノートを欠かさずチェックし適切なアドバイスをしたり、「学力向上通信」で学習への意欲喚起や効果的な学習方法を提示したりすることで、さらなる家庭学習の質的量的充実を目指します。</p>
III 豊かな心	<p>○学活や道徳等において、あいさつの意義や大切さを考える機会を与え、さわやかなあいさつを生徒自身からできるよう働きかける。教師が生徒の模範となるあいさつをする。校内でのあいさつ運動、小中連携の合同あいさつ運動を行い、あいさつの推進をしていく。</p> <p>○日頃から生徒一人一人と向き合い、長所を褒めて伸ばしていく。学校行事では、生徒全員で1つのことをやり遂げる楽しさを実感できるような企画・運営を行う。</p> <p>○生活アンケートや細かな生徒の観察を通して、いじめ防止に努め、いじめ問題が起きたときにはいじめ防止対策委員会を中心に迅速な対応をする。</p> <p>○教師による継続的な呼びかけ、校内におけるポスターの掲示、保護者会、ノーメディアデーを実施する。警察と連携して非行防止教室や情報モラル講習会を実施する。</p> <p>○生徒一人一人が活躍できる場を設定し、部活動では、異学年の交流を通して、自己有用感を育む。</p>	<p>○自分から進んでしっかりとしたあいさつができる生徒が80%以上。</p> <p>○学校生活が楽しいと感じている生徒が80%以上。</p> <p>○学校のいじめへの対応や対策が十分であると思う生徒・保護者が80%以上。</p> <p>○ケータイ、スマホ、ゲーム機等を午後9時以降使っていない生徒が80%以上。</p> <p>○学校生活において自己有用感をもっている生徒が80%以上。</p>	<p>○自分から進んでしっかりとしたあいさつができる生徒は87%(−1%)</p> <p>●学校生活が楽しいと感じている生徒は78%(−6%)</p> <p>●学校のいじめへの対応や対策が十分であると思う生徒は75%(+7%)</p> <p>保護者は63%(+5%)</p> <p>●ケータイ、スマホ、ゲーム機等を午後9時以降使っていない生徒は44%(+7%)</p> <p>生徒が使っていないと答えた保護者46%(−9%)</p> <p>●学校生活において自己有用感をもっている生徒は55%(+5%)</p>	<p>○教師による生徒への声かけや、あいさつの意義を教えることにより、あいさつができるようになってきた。さらにもっと気持ちのよいあいさつができるように、引き続き教師から元気に爽やかな模範となるあいさつをしていきます。</p> <p>○合唱コンクールや学級、部活動を通して、生徒の役割を明確にし、それを成し遂げるための支援、声かけを行います。</p> <p>○道徳や学活などを通して、いじめについて考える場を設けて、いじめは許されない行為だということを指導していきます。</p> <p>○未然防止策として、生徒主体のいじめ防止活動(ハートフルプロジェクト)をさらに活性化させていきます。</p> <p>○早期発見・早期対応を全職員で心がけ、報告・連絡・相談を欠かさずに行います。</p> <p>○生徒集会で生徒会よりケータイ、スマホの使い方について提案を行った。保護者の方々のご協力もあり、ケータイ・スマホを家族のルールにのっとって使えるようになってきている。今後も保護者との連携をとりながら、改善を進めていきます。</p> <p>○自己有用感は年々向上してきている。しかし、まだまだ低いので、生徒に活躍の場を与え、それを賞賛したり、認めたり、励ましたりして生徒全体の活動を通して自己有用感を高めていきます。</p>
IV 活動の意欲	<p>○学活や休み時間等を使い、行事に向けての練習を重ね、その中で学級の絆を深め、積極的に参加できるようにする。部活動では、目標や方針を明確にして取り組むようにする。</p> <p>○学活・道徳・総合の時間を使って、清掃やボランティア活動の意義について考える機会を設ける。生徒会本部主催によるボランティア活動を実施し、参加を呼びかける。</p>	<p>○行事(JO,合唱コンクール等)や部活動に積極的かつ向上心をもって参加している生徒が80%以上。</p> <p>○清掃やボランティア活動に友達と協力して進んで取り組んでいる生徒が80%以上。</p>	<p>○行事(JO,合唱コンクール等)や部活動に積極的かつ向上心をもって参加している生徒は88%(±0)</p> <p>○清掃やボランティア活動に友達と協力して進んで取り組んでいる生徒は81%(+4%)</p>	<p>○各学級や各部でボランティア活動への参加を呼びかけた。多くの生徒に経験させることで、生徒一人一人がやりがいを感じられるような活動にしていきます。また、学年通信や学校通信を通して保護者にもその様子を伝えるようにしていきます。</p> <p>○引き続き、学校行事の意義や目的を伝え、行事に積極的に参加できるようにするとともに、清掃活動に進んで取り組んでいる生徒の姿を認め、声かけを行っていきます。</p>
V 健康・体力	<p>○日常の生活指導や掲示物を通して、朝食を摂ることの大切さを生徒に伝えていくとともに、保健だよりや学校保健委員会を活用して、保護者からも協力が得られるよう働きかける。</p> <p>○日常の生活指導や掲示物を通して、成長過程での睡眠時間の確保の大切さを生徒に伝えていくとともに、保健だよりや学校保健委員会を活用して、保護者からも協力が得られるよう働きかける。</p> <p>○体力向上プランを周知し、様々な場面(教科体育・部活動・地域の諸行事への参加等)で体力向上を目指す場面を増やす。また、自己の体力を確認し、その伸長や改善を目指す意識の向上を図る。</p>	<p>○毎日必ず朝食をとっている生徒が80%以上。</p> <p>○週平均1日6時間以上の睡眠をとっている生徒が80%以上。</p> <p>○日常的に進んで自分の体力を向上させようとしている生徒が80%以上。</p>	<p>○毎日必ず朝食をとっている生徒は92%(±0)</p> <p>●週平均1日6時間以上の睡眠をとっている生徒は71%(+10%)</p> <p>○日常的に進んで自分の体力を向上させようとしている生徒は85%(+1%)</p>	<p>○引き続き、発達段階に応じた生活指導をしていく。朝食欠食の生徒は体調不良で来室することが多いことから、来室した際には、個別の保健指導を行います。掲示物や保健だより等を活用し、朝食の大切さについて啓発をしていきます。</p> <p>○保健だよりや掲示物を活用し、睡眠の大切さを生徒・保護者に伝えます。また、質の良い睡眠がとれるように、睡眠前にスマートフォンなどの電子機器の使用を控えるよう、保健委員会の取り組みを通して啓発していきます。</p> <p>○体力向上に取り組んでいる意識はもっていますが、「おおいにできた。」とは言えないのが現状です。「自信をもって取り組んだ。」と答えられるように、努力を評価して自信をもたせていきます。自己有用感の味あえる体力づくりへの取り組みにしていきます。</p>

評価対象	今年度の方策	今年度の具体的数値目標	成果と課題(昨年比)	2学期の主な改善策
VI 安全確保・ 施設設備	<p>○登下校や学活、交通指導の中で、交通安全への意識を高め、ヘルメットをかぶるように働きかける。また、危険箇所での一時停止を呼びかける。</p> <p>○避難訓練を通して、避難における注意事項、避難経路等を確認する。</p> <p>○校外委員会のなかで、生徒同士で危険箇所の確認・周知をできるようにする。また、安全マップを各フロアに掲示し、危険箇所を常に把握できるようにする。</p> <p>○日々の校門付近や、定期テスト期間の主要な交差点等での登下校の指導を行い、交通マナーの向上を呼びかける。</p>	<p>○交通ルールを守り、ヘルメットをかぶって登下校している生徒が100%。</p> <p>○火災等の事故発生時の避難の仕方に関する知識を身に付けている生徒が80%以上。</p> <p>○自分の通学路の事故等が起こりそうな危険な箇所を知っている生徒が80%以上。</p> <p>○学校の登下校の安全指導が適切であると感じている保護者が80%以上。</p>	<p>○交通ルールを守り、ヘルメットをかぶって登下校している生徒は99%(−1%)</p> <p>●火災等の事故発生時の避難の仕方に関する知識を身に付けている生徒は93%(−2%)</p> <p>○自分の通学路の事故等が起こりそうな危険な箇所を知っている生徒は81%(±0)</p> <p>○学校の登下校の安全指導が適切であると感じている保護者は89%(+1%)</p>	<p>○継続して生徒に被害者の立場だけでなく加害者の立場として交通安全について考えさせ、ヘルメットの指導に加えて一旦停止、安全確認を徹底できるよう安全への意識を高めていきます。</p> <p>○避難訓練の避難経路を工夫し、有事の際に迅速な避難をし、自分の命を守るようにしていきます。また、避難訓練もより実践的な形式で行えるよう工夫していきます。</p> <p>○引き続き、校外委員会での危険箇所の把握と、全体への周知や、学活等を活用しての危険箇所の把握をしっかりとしていきます。安全な登下校に努めます。</p> <p>○交通安全啓発ポスターを掲示したり、帰りの学活等で呼びかけたりすることを通して、安全マナーの向上を図ります。</p>
VII 進路・ 生き方	<p>○職業調べ、職場体験学習等の啓発的体験や生き方教育講演会、立志式などの学校行事で、ワークシートを将来の夢や希望を意識できるように工夫する。</p> <p>○進路希望調査や教育相談シートを活用し、家庭での進路にかかわる話合いの場面を意図的にを行い、学年通信や進路便り、キャリア教育通信により啓発する。</p>	<p>○自分の将来への夢や希望をもっている生徒が80%以上。</p> <p>○親子で進路について話し合う機会を定期的に設けている家庭が80%以上。</p>	<p>●自分の将来への夢や希望をもっている生徒は78%(−1%)</p> <p>○親子で進路について話し合う機会を定期的に設けている家庭は80%(+1%)</p>	<p>○各学年で行われる行事のなかで生徒同士の話し合いを通して、他の生徒の考えを知る機会をつくることで進路に対する意識をもたせませす。職業調べや職業インタビューを丁寧に行い、将来への関心を高めさせませす。</p> <p>○教育相談や進路説明会の際に、家庭での話し合いを通して、自分自身で進路決定することの必要性を、進路指導主事や担任等から伝えます。また、提出書類には保護者欄をつくり、家庭での話し合いの機会を多くします。</p>